



特集
1

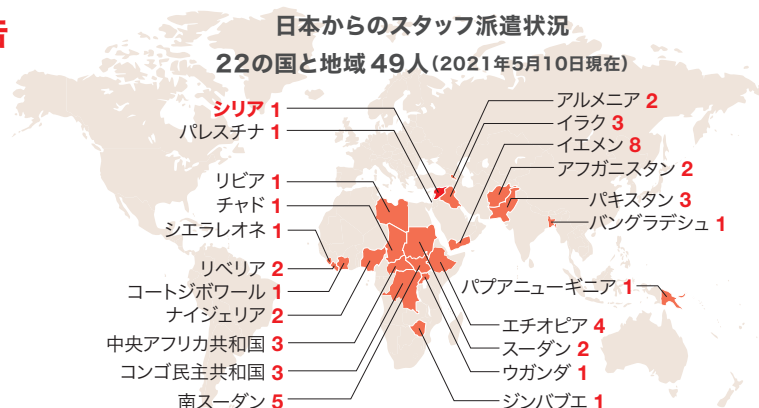
シリア危機10年 困難が続いても 援助の手を止めない

熱がある子どもをMSFの診療所に連れてきた母親。家族はもう何年も、シリア国内で避難生活を続けている(2017年撮影)

特集
2

2020年度 国境なき医師団日本 財務報告
新型コロナウイルス感染症危機対応募金 収支報告

【連載】
チーム国境なき医師団の輪
もっと知りたい! MSFスタッフの素顔



シリアってどんな国？

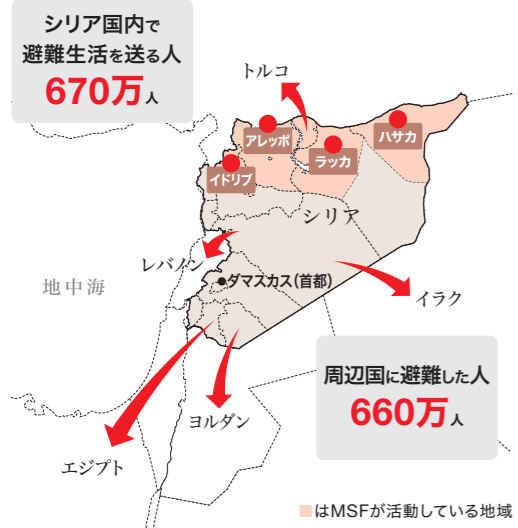
トルコの南に位置する中東・西アジアの共和制国家。首都は中東最古の都市、ダマスカス。イスラム教徒が87%※3を占め、反政府デモに端を発した内戦がこの10年間で泥沼化。数百万人の難民を生み、今世紀最悪の人道危機、いわゆる「シリア危機」が続いている。

人びとはどんな状況？



1300万人以上が国内外で避難生活を送る※1

東京都の人口(約1390万人※4)ほどの多くの人びとが、いまでも避難生活を強いられている。



8時間に1人、子どもが死傷している※5

2011年以降、何と約1万2000人の子どもが傷つき、命を落としている。

皆さまのおかげでできたこと



2012年以降、MSFは延べ**250万人**を診療

外科治療のほか、慢性疾患の治療、子どもへの予防接種など多様なニーズに対応している。

※3 2020年 CIA The World Factbook
※4 東京都ホームページ、令和3年3月1日時点
※5 国連児童基金 2021年3月発表

公式サイトで特集公開中

日本人スタッフのエピソードも！
皆さまが関心を寄せ続けてくださることが、私たちの何よりの支え。シリアで活動したスタッフのエピソードや、シリア危機の理解に役立つ動画など、ぜひご覧ください。

▲スマートフォンから

www.msf.or.jp/syria10/index.html

やまない空爆。家も病院も破壊された

度重なる空爆で家も病院も壊滅し、見渡す限りがれきの街と化した東アレッポ。この10年、医療施設やスタッフへの攻撃もやまず、シリア全体で実に640回※2に上る。多くの患者、医療スタッフが命を落とし、MSFの海外派遣スタッフは国外退去を余儀なくされた(2016年撮影)



© KARAM ALMASRI



© OMAR HAJ KADOUR - 5D MARK IV/MSF

10年たっても避難生活が続く人びとが多数

避難民キャンプで身を寄せ合うのは、長引く内戦で家を失い、家族を失った幼い子どもたち。冬でも暖をとる薪も燃料も足りない中、MSFは毛布やビニールシートなどの防寒用品を配布。移動診療や衛生状態の改善にも注力している(2018年撮影)

※1 国連難民高等弁務官事務所 2021年3月発表
※2 国連児童基金 2021年3月発表「FAST FACTS SYRIA REGIONAL CRISIS 10 YEARS ON」レポート

Doctor's Voice—現地の医師の声

命を繋ぐ、希望の治療を続けられるように。MSFに託した腎移植患者の命

医師 **モハマド・アル・ユセフ**

内戦前のシリアでは、腎移植患者が国立病院などで治療を受けられ、透析と投薬は無償でした。けれど2011年からここイドリブでは、多くの検問所に阻まれ通院が不可能になり、薬も有償に変わりました。腎移植患者に必須の高価な免疫抑制剤を自前で調達できる人などごくわずか。私はMSFと接触し、薬の費用が賄えない腎移植患者がいることを伝え、医療記録を渡しました。するとMSFが薬を無償で提供することに同意してくれたのです。

大半の人道援助団体に見過ごされ、頼るあてもなかった患者にとって、MSFは命をつなぐ希望の光となりました。現在、私を通してMSFの薬を提供している患者は約100人。先が見えない中でも、患者への支援を続けていきます。

© Illustration by Lucille Favre - MSF Switzerland



© Robin Meunier/MSF

不十分な設備でも、最善を尽くす

MSFは2012年にシリア国内で活動開始。反政府組織が支配する地域では多くの医療機関が破壊されたため、MSFは養鶏場や建物の地下などに簡易医療施設を作った。簡易手術室はテント張り、薬も備品も不十分だったが、数少ない病院を探し求め、詰めかける人びとの傷の手当てを行った(2012年撮影)

この10年、シリアでは反政府デモが拡大し、激しい内戦と、「今世紀最悪」とまでいわれる人道危機が続いています。いま、この国の人びとはどんな困難に見舞われているのでしょうか。現状と取り組みをお伝えします。

東最古の都市、「オリエントの真珠」ともたたえられた首都ダマスカスを擁するシリア。遺跡も多く、内戦が始まる前は美しい街並みを誇っていました。それがいまや一変、度重なる空爆でがれきに覆われた光景に(左ページ上写真)。

民主化運動「アラブの春」がシリアに波及し、2011年3月、各地で起きた反政府デモを、シリア政府軍が武力で弾圧。政府軍・反政府軍の抗争に近隣国や米国・ロシアが介入、過激派組織「イスラム国」の台頭がさらなる混乱を招き、泥沼の内戦がいまも続いているからです。

この10年間で1300万人以上※1もの人びとが国内外に避難し、何十万人もの命が奪われました。「いとこは銀行で現金をおろそうとしただけでテロリストとみなされ、逮捕されました」「母は持病の薬が手に入らなくなり命を落とし、息子はパンを手に帰宅する途中、射殺されました。空爆から逃れようと6、7回引越しましたが、どこまでも追われ、安全な場所などありません」。人びとは苦境をそう絞り出すように語ります。

たとえ避難民キャンプに逃れてきても、雨が降ればテントは水浸し。腰も下ろせなくなる劣悪な暮らして病気がやけ、食料難が絶えません。

絶望の中でも医療を決して諦めない

しかも、シリア政府は反政府組織が支配する地域での医療行為を禁止し、「テロとの戦い」という名目で、戦時下の傷病者の保護などを規定した国際人道法を無視して医療機関へ空爆を繰り返したため、医療システムは壊滅状態にあります。

MSFはシリア政府から活動許可を得られず、国内での活動はアレッポ、イドリブなどの北部のみ。それでも悲惨な戦禍で増え続ける患者に何とか医療を届けようと、現在は病院への支援のほか、避難民キャンプに物資を送り、水と衛生の改善に努めています。また子どもへの予防接種、糖尿病などの慢性疾患の治療にも取り組んでいます。ときには活動中断を迫られることも。しかし、私たちは絶望的とも言えるシリアでの医療提供を決して諦めません。

特集1 シリア危機10年 困難が続いても 援助の手を止めない

02 2020年度 新型コロナウイルス感染症危機対応募金 収支報告

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、3月から「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」の受付を開始し、12月末までに27.1億円もの寄付を頂きました。皆さまのご支援に重ねて御礼申し上げます。

■活動概要

2020年1月、新型コロナウイルス感染症への対応を香港で開始。その後世界各地での感染拡大に伴い、既存の医療援助活動を適応・強化するとともに、6月までに多くの活動地で新プロジェクトを開始しました。この対応のために新しく援助活動を開始した国と地域は日本を含む22に上り、かつてない活動規模となりました。

■活動資金

3月、新型コロナウイルス感染症および関連する活動への用途を限定した寄付の受付を開始しました。活動規模の拡大や物資の価格高騰などを受け、1億5000万ユーロ(約182.9億円*)の調達を目標に**2、そのうち日本では29億円(約2380万ユーロ)を目標に**2ご支援を募りました。

※1 1ユーロ=121.9円で換算 ※2 2021年4月5日現在

MSF日本

【ご寄付者数】

個人の皆さま	延べ 12万4193人
法人の皆さま	延べ 3200社
合計	延べ 12万7393

【寄付入金額】 (単位:百万円)

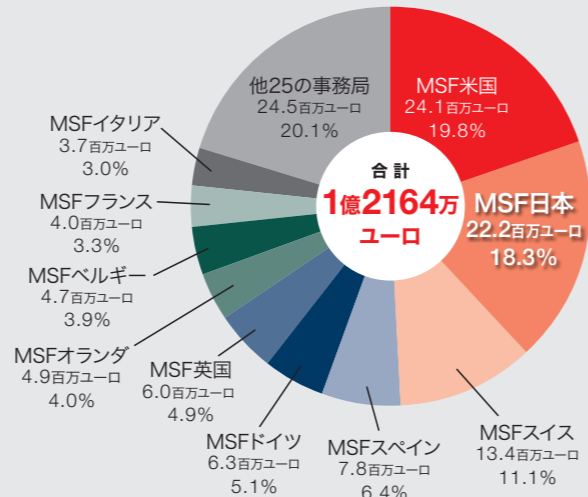
収入	
新型コロナウイルス危機対応募金	
寄付入金額	2,708.6
MSF韓国、MSF米国からの入金	3.7
計	2,712.4
支出	
オペレーション事務局へ配分した金額	2,706.5
日本での活動に充てた金額	5.9**3
計	2,712.4

※3 日本で調達した寄付金からの約547万円とMSF米国からの入金約44万円が含まれる。

MSF全体

【寄付収入】
1億2164万ユーロ

世界35の事務局で調達活動を行いました。日本での寄付収入金額は全体の約18.3%を占め、世界各地での新型コロナウイルス対応への大きな支えとなりました。



■資金配分先

支援金は、主に医療体制が弱い地域や紛争地など、専門の治療施設や救急医療サービスなどが不足している国や地域に配分されました。

支出総額 **1億1780万ユーロ**

■配分先上位国

イエメン	8.99
コンゴ民主共和国	7.59
バングラデシュ	5.95
南スーダン	5.87
イラク	5.09

など (単位:百万ユーロ)

より詳しい報告をウェブで公開中!

2020年度の新型コロナへの対応の詳細とともに現在の最新情報をご覧いただけます。

www.msf.or.jp/news/detail/headline/coronavirus.html



03 2021年度 国境なき医師団 活動計画

2021年度、MSFは70以上の国と地域で医療援助活動を予定しています。*4

■活動予算

援助活動費 **総額1374.7億円**5**

アフリカ 653.6億円(約48%)
コンゴ民主共和国、中央アフリカ共和国、南スーダンなど

中東 237.5億円(約17%)
イエメン、イラク、シリア、レバノンなど

アジア・オセアニア 162.5億円(約12%)
アフガニスタン、バングラデシュ、パキスタンなど

中南米・欧州 104.2億円(約7%)
ハイチ、ベネズエラ、ギリシャ、ウクライナなど

その他 216.9億円(約16%)
自然災害や感染症の流行などへの緊急援助活動費など

■主な活動予定国

【アフリカ】**コンゴ民主共和国**
予算額 **96.8億円**
これまでの活動例【活動開始 1977年〜】
国内避難民や難民への基礎医療、栄養治療、暴力被害者支援、心のケア、エボラ出血熱、コレラやはしかの対応など。
●外来診療168万7900件 ●マラリア治療60万7400件(2019年)

【アフリカ】**中央アフリカ共和国**
予算額 **79.7億円**
これまでの活動例【活動開始 1997年〜】
暴力・性暴力被害者支援、国内避難民への基礎医療、HIV/エイズの治療、栄養失調、マラリア、はしか、結核の対応など。
●外来診療96万7000件 ●マラリア治療61万2700件(2019年)

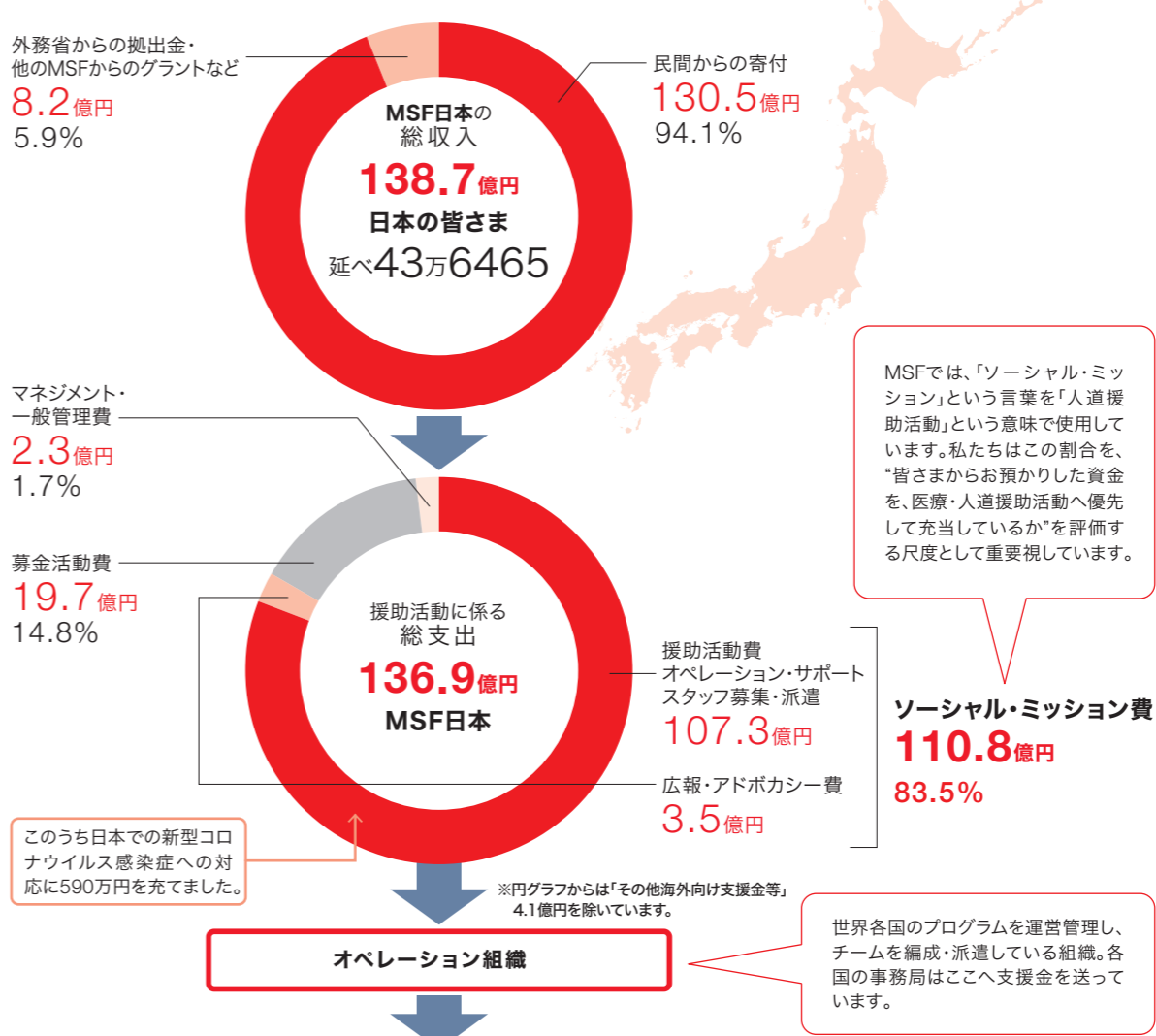
【中東】**イエメン**
予算額 **92.2億円**
これまでの活動例【活動開始 1986年〜】
紛争による負傷者治療、国内避難民などへの基礎医療、産科・外科・小児科医療、コレラやはしか、栄養失調の対応など。
●外来診療30万8900件 ●出産助産3万1000件 ●手術2万7100件(2019年)

など70以上の国と地域を予定
MSFのSNSアカウントをフォローいただくと、最新の活動の情報をお受け取りいただけます。同封の寄付申込書裏面にぜひご覧ください。

*4 3月29日時点の予算。
*5 1ユーロ=121.9円で換算(以下同)。
(注)4~5ページの金額は四捨五入して表記しているため、各数値の合計と「合計」が異なる場合があります。

01 2020年度 国境なき医師団日本 財務報告

昨年度の総収入は138.7億円で、このうち94.1%は皆さまからのご寄付が支援してくださりました。活動地へは過去最高の105.2億円を送ることができました。



以下の世界40の国と地域での活動に大切にに使わせていただきました

アフリカ:18カ国 53.1億円

コンゴ民主共和国	6.4億円
ナイジェリア	6.3億円
中央アフリカ共和国	6.0億円

このほか、マリ、南スーダン、カメルーンなど

中東:7の国と地域 27.7億円

イエメン	13.2億円
パレスチナ	6.9億円
ヨルダン	2.8億円

このほか、イラン、レバノン、イラク、シリア

アジア:9カ国 14.0億円

バングラデシュ	4.1億円
パキスタン	3.0億円
日本	590万円

このほか、アフガニスタン、フィリピン、インドなど

※各地で新型コロナウイルス感染症対応も行いました。詳しくは左ページ

北米・中南米:5カ国 6.7億円

ハイチ	3.6億円
ベネズエラ	1.9億円
コロンビア	6400万円

このほか、ペルー、米国

オセアニア 3.4億円

パプアニューギニア

欧州 5000万円

スペイン

『活動報告書2020年度版』でさらに詳しく
MSF日本の、活動概要と財務報告を掲載した『活動報告書2020年度版』が完成しました。公式サイト上で、PDF版をご覧ください。

www.msf.or.jp/library/annualreport/

スマートフォンから▶



特集2
私たちを支えてくださる皆さまに、3つのご報告

国境なき医師団(MSF)は活動と財務の透明性と説明責任を重視しています。この特集では、いつもご支援くださる皆さまに、2020年度の収支状況と、2021年度の活動計画をご報告いたします。

MSF日本会長からの ごあいさつ

3月、国境なき医師団(MSF)日本の理事会メンバーが新たに決まりました。理事会を代表して、会長の久留宮隆から、支援者の皆さまにごあいさつをいたします。

日頃より国境なき医師団(MSF)をご支援くださり、心より御礼申し上げます。皆さまの温かいお気持ちのおかげで、世界中の医療を必要とする人びとに援助を届け続けることができます。

2020年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行により世の中が大きく変化し、MSFの活動も異例の対応を迫られました。そんな中でも、日本からは海外派遣スタッフ75人(延べ106回)の、30の国と地域への派遣が決まり、世界各地でさまざまな医療危機に立ち向かうことができました。アフリカや中東では、マラリアやはしか、コレラなどの感染症が相変わらず深刻で、医療があれば治るはずの病気で人びとが命を落としています。今号の特集でご紹介しているシリアや、イラクなど紛争下の国では、人びとが病院に行くことさえ難しい状況です。

必要な時に必要な医療を受けられることが「当たり前」ではない場所が世界には多く存在しています。私たちは、そんな場所で切実に必要とされている医療を、継続して提供することに重点を置いてきました。それも、皆さまのご支援があってこそこのことと心から感謝しております。

今年12月、MSFは設立から50年という節目の時を迎えます。いまこそ、最大限の力を発揮して活動に取り組むべき時です。皆さま一人一人の温かい思いに支えられ、これからも、世界で医療を必要とする人びとのために医療・人道援助活動を続けてまいります。

今後も、変わらぬご厚情を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。



く り み や た か し
久留宮 隆

1959年、名古屋市出身。外科医。三重大学医学部を卒業後、三重県を中心に地域中核病院に勤務。現在、永井病院(津市)で救急を担当。MSFの活動には2004年より参加し、東日本大震災緊急援助や熊本地震緊急援助、イエメン、カメルーンなどで活動。2018年よりMSF日本副会長、2020年3月より現職。

久留宮隆

MSF日本の理事会とは？

MSFには、活動が常に現場の状況やニーズに沿ったものであるよう、現地での活動経験者を中心に構成される「アソシエーション」が存在し、MSFの社会的使命の在り方と活動の実現を議論し、行動に移しています。年次総会にてそのメンバーの中から選出された理事は、MSF日本の運営戦略を方向付け、その実行を委ねられた日本事務局が戦略を遂行しています。MSF日本理事会はまた、海外のMSFの理事会と協働し、グローバルなMSFの体制管理も担っています。

理事

- 会長 久留宮 隆 (外科医)
- 副会長 谷口 博子 (元国境なき医師団日本事務局職員)
ユ・ソヒ (内科医)
- 専務理事 エリック・ウアネス (元国境なき医師団日本事務局長)
- 会計役 齊藤 哲也 (元国境なき医師団日本事務局職員)
- 理事 ジル・デルマス (疫学専門家)
キム・テヨン (コーディネーター)
高橋 健介 (内科医/疫学専門家)
田岡 知明 (看護師)

監事

リチャード・スィーベル (元国境なき医師団日本事務局職員)

■ご相談はお気軽に

遺言書の作成方法から注意すべきポイントまで、遺贈寄付について詳しくまとめた資料をご用意しています。またお電話で個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください(ご相談無料)。

国境なき医師団
遺贈寄付ご相談ダイヤル

03-5286-6430

(平日10:00~17:00) 担当: 萩野・今尾
Eメール: legacy@tokyo.msf.org



物腰柔らかなお二人です。



目黒公証役場の入り口。中が見えるので入りやすいです。

を話して伝え、それに基づいて公証人が法律を意識しながら遺言者の真意を正確に文章にまとめ、公正証書遺言として作成するものです。公証人が執務する事務所が公証役場です。全国に約300カ所あります。

まず電話で予約していただき、事務所に来ていただいで、ご本人のご意思を確認するところからご相談が始まります。我々と話をされるうちに、ご自分の希望がはっきりしてくることも多いもの。遺言書を書くのかなと思いついたらお気軽にご相談ください。

A 遺贈をするには法的に有効な遺言書を作成していただく必要があります。公正証書遺言とは、遺言者が公証人の面前で遺言の内容を話して伝え、それに基づいて公証人が法律を意識しながら遺言者の真意を正確に文章にまとめ、公正証書遺言として作成するものです。公証人が執務する事務所が公証役場です。全国に約300カ所あります。

Q 公正証書遺言ってどんなもの？
公証役場ってどんな所？

今号のご質問



おぎの かずのぶ
萩野 一信

ご遺贈を検討される過程では、ご不安なことも出てくるかと存じます。ぜひお気軽にご相談ください。お待ちしております。



いまお れいこ
今尾 礼子

ご遺贈に金額は関係ありません。大事なお金をどうするか考える中で、アイデアを探す感覚でお気軽にご相談ください。

私たちが
相談員です！

この新コーナーでは、遺贈寄付に関する注目のニュースや、皆さまからのお問い合わせの多い疑問へのお答え、お話を聞いてみたい方々へのインタビューなどの話題を、遺贈寄付ご相談窓口の2人がお届けします！

遺贈寄付相談室だより

あなたとつながる、ひろがる。

チーム 国境なき医師団 の輪

「毎月の寄付」のご支援者さまのお声をご紹介します！

皆さまのご支援にかかる思いや国境なき医師団(MSF)への要望をお伺いするため、昨年、「毎月の寄付」でご支援くださっている一部の方々に向けてアンケート(3月)と個別インタビュー(9~11月)をお願いしたところ、何とご協力くださった方が約2万9000人も！この場をお借りして御礼申し上げます。

本コーナーでは、私たちが受け取った熱い思いの一部をご紹介します。

ご参加くださったのは
アンケート回答者 2万8934人
インタビュー参加ご希望者 2528人
インタビュー人数 60人



私たち事務局メンバー4人がお話を伺いました！

アンケート&個別インタビューから

■ MSFを「毎月の寄付」でご支援くださる理由は?(2つ)

1. 独立・中立・公平の立場で医療援助を届けているから 1万5766票
 2. 現場で活動するMSFのスタッフに共感しているから 1万4645票
 3. 全ての人は医療を受ける権利があると思うから 1万2034票
- (回答数=2万7795)

上記のほか、個別インタビューでは「寄付の使い道を限定しないからこそ、本当に必要なところに使ってもらえると思った」「MSFは資金を安定的に確保でき、私は手続き1回だけだから」というお声も。

■ アンケート/個別インタビューにご参加くださった理由は?

- 「MSFに協力したかった、役に立ちたかった」
- 「自分もMSFの一員だともっと感じてたくて」
- 「自分の寄付のきっかけや思いを伝えることが、新しい寄付者を募る際の力になるかもしれないと思った」

「MSFの力になりたくて」というお声の多さに、スタッフ一同感謝の思いでいっぱいです。「スタッフと話したかった」という方も。今後もこうした機会を設ける予定ですので、その際はぜひご協力をお願いします。

■ 寄付以外でMSFを支援するとしたら?(複数回答可)

1. MSF主催のイベントや活動報告会などに参加する 6697票
2. メールマガジンやSNSのMSFの記事をシェアする 6633票
3. 日本事務局やイベントでボランティアをする 4519票

自由回答から：友人知人に伝える、ブログに書く/授業や講義で教える、スタッフに講師として来てもらう/ニューズレターを回覧する など (回答数=2万8934)

多くの方が自由回答欄にたくさんの支援案をご記入くださり、とても心強く感じています。私たちの活動をもっと知っていただくだけでも大きな力に。イベントも随時行っていますので、ぜひご参加ください！

頂いたご意見はこれからの活動に生かしてまいります！

●今号の『ACT!』の感想をお寄せください

ぜひ次の項目に、郵送あるいはWEBからご回答ください。
①特に印象に残った記事を2つと、その理由 ②あまり興味を持てなかった記事があれば、その記事と理由 ③ご意見・ご感想
ご協力くださった方の中から10名様にMSFオリジナルランチバッグ(右写真)を差し上げます。締め切りは2021年7月末日です。



郵送 郵便はがき、お名前、支援者番号、アンケート回答をご記入の上、裏表紙に掲載の住所までお送りください。

WEB www.msf.or.jp/act202106

お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送・アンケートの分析ならびに各種ご案内の送付などに利用いたします。詳しくは国境なき医師団日本の個人情報取り扱いに関する基本方針をご参照ください。→www.msf.or.jp/policy/



新コーナー

連載



もっと知りたい！ MSFスタッフの素顔

日本事務局の使命の一つが、国境なき医師団(MSF)の活動を広め、支えてくださる方を増やすこと。その手段の一つ、講演会を運営するスタッフをご紹介します。

「スタッフの生の声を届けられる講演会。誰かの人生に届くことを信じて」

広報部 講演会担当 ベビシユタイン紗良

質問 1 なぜMSFは講演会 を行っているの？

日頃、学校や病院、行政などから依頼を受け、海外派遣スタッフによる講演会を実施しています。世界の人道危機やMSFの活動を伝える際、スタッフの「生の声」が非常に強い力を持つからです。実は海外派遣スタッフの中には、学生の頃にMSFの講演を聞き、MSFを目指した人も少なくありません。誰かの人生を変えられる——それが講演会の力だと考えています。

私の仕事は講師の選定や日程調整ですが、どんな職種の人から話を聞くとより心に残るか、考えて選んでいます。

質問 2 やりがいは？

感染対策のため、昨年から講演会をオンラインイベントとして始めました。初の試みで慣れないことも多く、初回は配信が中断するトラブルも。でも支援者さまをはじめ、日本全国から多くの方が視聴し続けてくださり、ありがたく感じま

質問 3 なぜMSFに 参加したの？

た。オンラインイベント中に次々と寄せられる温かいメッセージを読み、自分がしていることの意味も実感できました。

MSFに入る前、製薬会社で営業をしていた2014年のことです。偶然、MSFがミャンマー国内に住むロヒンギャの人びとに対する援助を一時停止させられたというニュースを聞きました。日本には溢れるように薬があるのに、一粒の薬が届かず亡くなる人がいると知って強い衝撃を受け、人道援助の分野に関わりたいと思うようになりました。

質問 4 支援者さまへ メッセージを！

いつもイベントにご参加くださり、また、盛り上げてくださりありがとうございます！ 私たちの活動を日本にもっと広めていくために講演会も強化したいと思っていますので、機会があればぜひご依頼ください。

スタッフが講演に参ります！

世界の人道危機や団体の援助活動について直接お話しさせていただく機会として、講演会を実施しています。ご興味のある方はお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ：www.msf.or.jp/study/



イベント詳細はメルマガでチェック！

イベントは不定期に開催しているため、『ACT!』でご案内が間に合わない場合がございます。ぜひメルマガジンにご登録ください！

ご登録方法は同封の寄付申込書下部、あるいは
www.msf.or.jp/mmagazine をご覧ください

ニュースレター

ACT!

2021年6月号

発行元

特定非営利活動法人 **国境なき医師団日本**

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199

通話料無料

平日9:00~18:00/
土日祝日、年末年始休業

※ご住所に変更がある場合は、上記までご連絡ください。

※新型コロナウイルス感染症対策により、場合によっては寄付によるお手続きや領収書の発行といった、事務対応に遅延が発生する可能性があります。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430

担当者直通

平日10:00~17:00/
担当：狹野、今尾

国境なき医師団は、世界約70の国と地域で活動する、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕した人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。年次活動報告書 www.msf.or.jp/library/annualreport/

ぜひチェック＆フォローしてください

公式ウェブサイト

www.msf.or.jp



Facebook
@msf.japan



Twitter
@MSFJapan

最新ニュースやイベント情報、メディア出演情報などをお知らせ



Instagram
@msf_japan

活動中のリアルな風景や、スタッフ・患者さんの姿をご紹介します



LINE
@msf_japan

最新ニュースやイベントのご案内、スタッフの活動レポートなど



YouTubeチャンネル
国境なき医師団日本

音や風景とともに活動地の様子が分かる

ご確認ください

●7月、オンラインイベントにご参加ください！

「世界報道写真展2021」(主催:世界報道写真財団、朝日新聞社)との連携企画として、2020年の世界報道写真大賞を受賞したフォトグラファーの千葉康由さんと、MSFのスタッフのトークイベントをオンラインで開催します。スーダンの撮影された千葉さんの受賞作品「Straight Voice(まっすぐな声)」の撮影背景や人道危機の現場の様子、そこに生きる人びとの声を届けます。参加無料。皆さまのご参加をお待ちしています！

世界報道写真展2021連携企画 「人道危機の現場、そこに生きる人びとの声」

開催日時:7月17日(土)14:30~16:00

詳細・お申し込み:www.msf.or.jp/wpph2021

イベント当日まで参加受付中！

スマートフォンから▶



ご登録住所やお支払い方法の 変更はこちらから！

スマートフォンからいつでもお手続きいただけます。

www.msf.or.jp/update/



スマートフォンから▲